

講義名	財務会計論 (経営学科)			授業形態	
担当教員	来栖 正利	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

会計学の基本事項を講義します。具体的には、貸借対照表と損益計算書の内容とそれぞれの役割を説明します。

到達目標

毎回の講義内容(ポイント)を、専門用語の意味をできる限り丁寧に説明できることを含めて、1,000文字程度に要約できることです。この要約力が改善されることによって下記の三つの目的を現在よりも高い水準で達成できることを目指します。

- (1) 簿記の知識の習得をできるようにする。
- (2) 財務会計の基礎知識の習得をできるようにする。

提出課題

毎回の講義内容に関するレポート課題をResponを通じて作成・提出してもらいます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

講義時間の最初の10分程度で前回の講義内容やレポート課題のポイントを解説します。

評価の基準

提出されたレポート課題と期末定期試験を併用して最終評価を確定します。レポート課題と期末定期試験の点数配分は、60:40です。したがって、毎回の講義内容に関するレポート課題を期日通りに提出してください。なお、レポート課題実施回数の1/3以上のレポート課題を提出しない履修者を「履修放棄」と判断し、最終評価を確定します。

履修にあたっての注意・助言他

出来る限り平易な言葉を用いて会計学の内容を講義します。ただし、会計学を学ぶにあたって、専門用語や概念をできる限り平易な表現を心掛けるものの、簡単な表現はできないことを予め覚悟しておいてください。つまり、抽象的な概念を理解することが不得意であれば、読解力が弱いことと語彙が不足していることを意味します。これらの問題を改善しない限り、抽象的な表現を理解することが困難なままです。

加えて、会計学を学ぶにあたって簿記ができるか否かは基本的に関係ありません。しかしながら簿記技法の「考え方」をまったく知らないと、会計学を学ぶことがむしろ困難であることも理解しておいてください。

講義内容に関するレポートは手書きで作成します。スマートフォンを使って検索し、レポートの大半をコピーすることしか考えないのであれば、何のために履修するのかを考え直すべきです。講義を見ているだけや聞いているだけでなく、講義内容を注意深く聞きながらノートを取り、考えることで理解力が改善されます。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

必要な教材や補助資料をPortalにアップします。

授業計画

1. 講義内容の解説
2. 財務会計の基礎
3. 貸借対照表論
資産：流動資産
負債と費用、期間損益計算
4. 資産：流動資産
権衡資産管理
5. 資産：固定資産
6. 負債：引当金と年金債務
7. 純資産：基本勘定
8. 純資産：剰余金勘定
9. 損益計算書論
収益と費用、期間損益計算
10. 営業利益
11. 経常利益・特別利益
12. 当期純利益
13. 株主資本等変動計算書
14. 調整
15. まとめ

* 講義の進捗状況に応じて講義項目を差し替える可能性がある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

○	ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

講義

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義毎に使用する配布資料を熟読し、知らない用語の意味を調べる程度の努力をせずに講義に参加しても理解できません。少なくとも予習に1時間程度を確保する必要があります。講義出席後は講義内容の理解度を改善するために、何が理解できなかったのかをできる限り明らかにし、その原因を解決するために専門用語の内容を再度調べなおす必要があります。これを行ったために少なくとも復習時間として3時間程度確保する必要があります。これは専門用語が抽象的であること補記技法を理解していても、日常生活で専門用語の内容を確認する機会が殆どないためです。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)~(3)を達成することで、DP(1)~に貢献できる。各業界の動向や問題点について、会計の観点から理解する基礎知識を身につけることができる。これをもとに、会計や財務という観点から企業マネジメントに関する基本的な課題理解が可能となることが期待される。授業計画の第1回目から第15回目の講義内容全体が、各業界の動向や問題点を会計の観点から理解するための基礎知識の習得に関連していることから、DP(1)~に間接的であるが貢献している。

また、目標(1)と(2)を達成することで、DP(2)~に貢献できる。簿記の知識を蓄積に行い、その知識を踏まえて財務会計の基礎知識の習得を行うことから、企業の財政状態や経営成績等に関する情報について、基本的な分析が可能となる。ただし、高度な財務分析および財務諸表の作成に関しては貢献しない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考